

関東維持管理技術センターの概要

～急速に進む構造物の老朽化に対応するための技術開発を効率的に推進します～

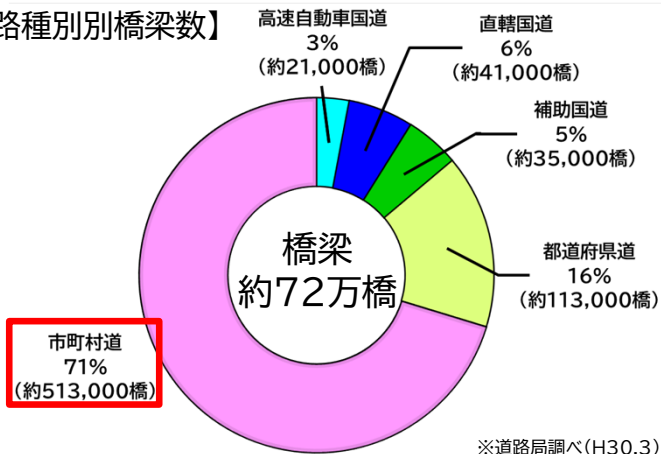
1. 背景と目的

■我が国では、高度経済成長時代に集中投資した社会資本が急速に老朽化しています。既存のインフラを安心して利用し続けることができるようにするためには、各施設の特徴を踏まえた適切な点検による現状確認と、その結果に基づく的確な修繕の実施が不可欠です。



■このため、平成25年7月1日付で、「関東維持管理技術センター」を設置し、インフラの戦略的な維持管理・更新を実現するために現場で必要とされる技術開発等を効率的に推進しています。

【道路種別別橋梁数】



【重大な損傷の事例(橋梁)】



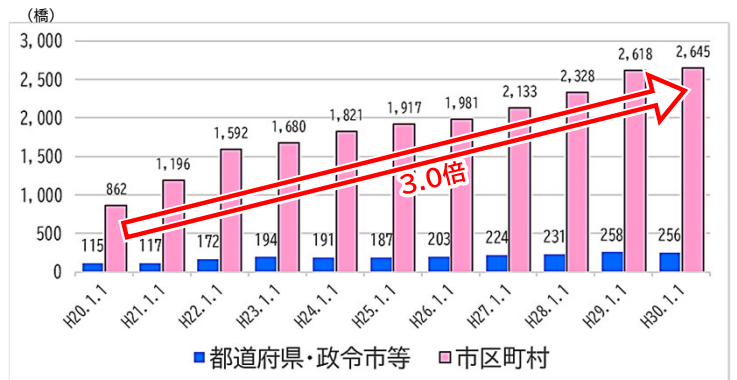
▲見晴橋(市道 新山下第8号線)は、37歳で損傷を発見

《建設後50年以上経過する社会資本の割合》(抜粋)

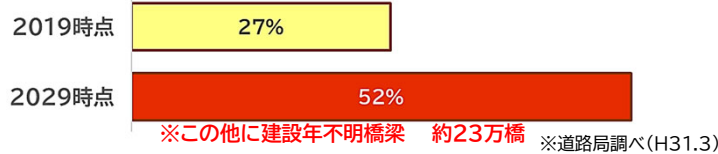
	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋	約25%	約39%	約63%
トンネル	約20%	約27%	約42%
河川管理施設(水門等)	約32%	約42%	約62%

(出典)「令和2年度国土交通白書」(国土交通省)

【地方公共団体管理橋梁の通行規制等の推移(2m以上)】



《建設後50年以上経過した橋梁の割合》



2. 組織構成(国土交通省 関東地方整備局) 《令和3年4月1日時点》

